

「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 3 月 29 日

仕事の内容	やまとあけぼの学園運営事業			
担当部署・課長名	保育	課 やまとあけぼの学園	係	課長名 関田 孝志

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。	施策番号	2 - 3	-
【施策名】 障害者福祉の推進	総合計画書 (ページ)	55	

予算名	款 3 民生費	項 2 児童福祉費	目 8 心身障害児通所施設費	事業 2 やまとあけぼの学園運営費
-----	---------	-----------	----------------	-------------------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 やまとあけぼの学園に通園している児童	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) ①延べ通園児数 ②実通園児数
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 療育を通して児童の力を引き出し、自立へ近づくことができる。	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) 通園者のうち、入園したことで生活習慣が良くなったと感じた保護者数の割合
	③ そのために何をしましたか。 発達につまずきのある就学前の児童に対し、自立を助長するために必要な指導及び訓練を実施した。 ①療育・・・通園により、自立した生活習慣の獲得や人との関係性の発展などを旨とする。 ②機能訓練・・・専門の療法士により、理学療法、作業療法、言語療法を実施する。	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) ①療育実施日数 ②機能訓練実施回数

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	人	①2762 ②18	①2804 ②17	①2108 ②15	
	成果指標	②の数値	%				
	目 標	②の目標値	%	100%	100%	100%	
		目標値設定の考え方	保護者が子どもを入園させて良かったと思える施設				
活動指標	③の数値		①232日 ②46回	①233日 ②46回	①234日 ②46回		

3 経費	事業費(実績)		円	26,208,900	25,182,032	25,483,416	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	7,782,327	5,575,513	7,586,968	
		特定財源	円	18,426,573	19,606,519	17,896,448	
		(うち受益者負担)	円				
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	9.0	8.0	7.0	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	1.0	
	職員人件費(再任用以外)	円	74,403,000	66,024,000	57,708,000		
	職員人件費(再任用)	円	0	0	3,019,000		
	事業費+人件費	円	100,611,900	91,206,032	86,210,416		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 やまとあけぼの学園は昭和47年10月、東京都の肢体不自由児通園事業を実施する施設として開設された。当初は学齢児まで対象としていたが、様々な制度改正をうけ、就学前の児童の通園施設となった。平成25年度から児童福祉法に基づく児童発達支援、同26年度からは児童福祉法、障害者総合支援法に基づく障害児相談支援・特定相談支援を実施している。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 発達障害に対して幼少期からの早期対応が求められるほか、障害児療育についても様々なニーズが出てきている。

仕 事 の 内 容	やまとあけぼの学園運営事業					
担当部署・課長名	保育	課	やまとあけぼの学園	係	課長名	関田 孝志

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について					
	保護者、職員に調査票を配布して、事業所の自己評価を実施したが、保護者からは施設の老朽化を指摘する意見があったものの、概ね良好な評価を得ることができた。					
6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）					
	取り組んだ	取組手法	⑧（行事（あけぼの祭り）でボランティアとして参加）			
			【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）			
(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点						
実施している事業の性格から現状の取り組みが適切である。						
7 課題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題（2）」の内容					
	<ul style="list-style-type: none"> ・民間活力の導入や施設の移転等については、今後の事業運営を見通した詳細な検討が必要である。 ・子どもの障害に関する保護者の認識がまちまちで、対応には経験がないと難しい。 					
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の移転等今後の運営については、担当部署により検討を継続している。 ・保護者、職員に調査票を配布して、事業所の自己評価を実施し、その結果を公表した。 					
(3)(2)を踏まえた今後の課題						
<ul style="list-style-type: none"> ・今後の運営については引き続き検討する。 ・自己評価の結果を踏まえ、療育の充実に取り組んでいく。 						
8 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など）					
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が子どもを入園させて良かったと思える施設を目指す。 ・保護者の気持ちに寄り添い、専門的でありながら負担を増やさないアドバイスを行う。 ・日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解を持つ。 					
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等					
	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の作成にあたっては、より適切な計画とするため、保護者の考えと園の考えを摺り合わせる必要がある。 ・子どもの将来を考える上で役立つ情報を提供する。 					
(3)改革・改善案による期待成果						
上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。						
成果	成果を維持する。				経費	仕事の経費は維持する。